



2018年3月14日

株式会社リクルートライフスタイル

## 「花見」の予算が2年ぶり微増！ 「歓送迎会」と「花見」の動向を調査

**2018年春の「歓送迎会」「花見」参加予定者は各3割程度か  
想定支出金額は「花見」が2,490円/回（昨年比+29円）  
「歓送迎会」は4,034円/回（昨年比-59円）**

株式会社リクルートライフスタイル(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：淺野 健)の外食市場に関する調査・研究機関「ホットペッパーグルメ外食総研」(<https://www.hotpepper.jp/ggs/>)は、2018年春の「歓送迎会」「花見」についてのカスタマーアンケートを実施し、その動向を発表いたします。

### ＜要約＞

**POINT① 今シーズンの「歓送迎会」「花見」への参加回数は「昨年並み」。  
参加率はいずれも前年同様3割程度か** · · · P 3-6

- 今年の「歓送迎会」「花見」への参加回数の見込みを聞いたところ、3圏域（首都圏・関西圏・東海圏）合計で、参加回数は「昨年と変わらない」が「歓送迎会」（85.7%）、「花見」（88.6%）とも、2013年の調査開始以来過去最多。
- 「歓送迎会」では参加回数が昨年より「増えそう」（9.3%）が、「減りそう」（5.0%）を上回った。
- 「花見」では参加回数が昨年より「増えそう」（9.0%）が、「減りそう」（2.4%）を上回った。

### 【参考】

2017年の参加率は「歓送迎会」が31.9%、「花見」が29.0%（3圏域合計）。

**POINT② 1回あたりの予算は「花見」で2年ぶり微増予想** · · · P 7-8

- 「歓送迎会」1人1回あたり想定金額は「3,000円～4,000円未満」（27.9%）が最も多く、続いて「5,000～6,000円未満」（27.7%）が多い。平均予算は4,034円（前年比-59円）で、2年ぶりにマイナス予想。
- 「花見」1人1回あたり想定金額は「2,000円未満」（28.7%）が最多。平均予算は2,490円（前年比+29円）と2年ぶりに予算が微増。

**POINT③ 「歓送迎会」の相手は「会社・仕事関係」が最多の36.3%、  
「花見」は「友人・知人関係」が最多だが、過去6年では最低の割合** · · · P 9-10

- 「歓送迎会」の相手は、「会社・仕事関係」の相手との会がありそうと答えた割合が36.3%と最多で、前年（35.7%）より0.6ポイント増加。
- 「花見」の相手は、「友人・知人関係」の相手との会がありそうと答えた割合が20.6%と最多だが、2013年の調査開始以来、年々減少している。

【本件に関するお問い合わせ先】 株式会社リクルートライフスタイル ホットペッパーグルメ外食総研  
<https://www.hotpepper.jp/ggs/> Eメール問い合わせ：[hp\\_gs@waku-2.com](mailto:hp_gs@waku-2.com)

## 調査概要と回答者プロフィール

◎調査名	外食市場調査(2018年1月分)
◎調査方法	インターネットによる調査 首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食のマーケット規模を把握することを目的に実施した調査(外食マーケット基礎調査)の中で、昨年の歓送迎会およびお花見についての実績や、今年の予測や意向などを聴取。
◎調査対象	首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県)、関西圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県)、東海圏(愛知県、岐阜県、三重県)に住む20~69歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)

### ■事前調査

①調査目的	本調査の協力者を募集するために実施
②調査時期	2017年12月20日(水)~2017年12月28日(木)
③調査対象	首都圏、関西圏、東海圏に住む20~69歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)
④調査内容	本調査への協力意向、普段の外食頻度、普段の中食頻度
⑤配信数	378,635 件
⑥回収数	35,741 件
⑦本調査対象者数	16,983 件

- ◆本調査対象者の割付について
- ・本調査では、回答者の偏りができるだけなくすために、割付をおこなって回収した。
  - ・性年代別10区分×地域別25区分(首都圏地域13区分、関西圏地域8区分、東海圏地域4区分)=250セルについて、平成27年国勢調査人口(総務省)に基づき割付をおこなった。
  - ・本調査の目標回収数は、首都圏4,000s、関西圏2,000s、東海圏2,000s、合計8,000sとした。

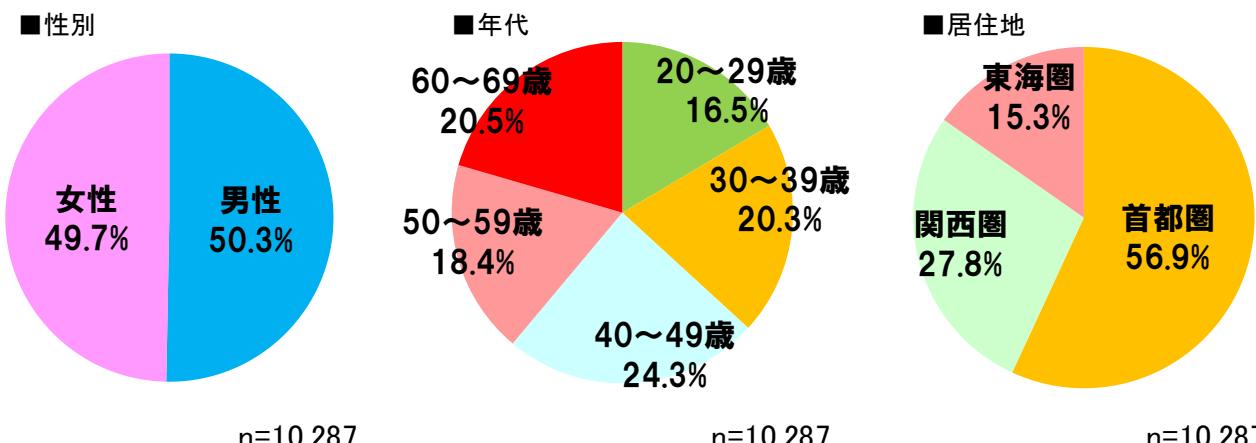
### ■本調査

①調査方法	・事前調査で本調査への協力意向が得られたモニターの中から、脱落率を加味して設定した必要数をランダムに抽出し、本調査の案内メールを通知。
②調査期間	2018年2月1日(木)~2018年2月7日(水)
③配信数	13,319 件
④回収数	10,366 件 (回収率 77.8 %)
⑤有効回答数	10,287 件 (首都圏 5,204 件、関西圏 2,690 件、東海圏 2,393 件)

※回収された票のうち、自由回答コメントから、主旨に合わないと判断された票を無効としたほか、事前調査時の普段の外食・中食頻度の回答と、本調査時の1カ月間の外食・中食回数が著しく乖離している場合、事前調査時の住所と、本調査時の住所が、圏域を越えて変わっている場合を無効とした。

- ◆集計方法について
- ・本調査結果は、平成27年国勢調査人口(総務省)における割付(性年代別10区分×地域別25区分=250セル)別の構成比に合わせてサンプル数を補正したウェイトバック集計をおこなっている。
  - ・補正後のサンプル数は次の通り。  
3圏域・計 10,287 件 (首都圏: 5,857 件、関西圏: 2,855 件、東海圏: 1,575 件)

### ◆回答者プロフィール(ウェイトバック後)

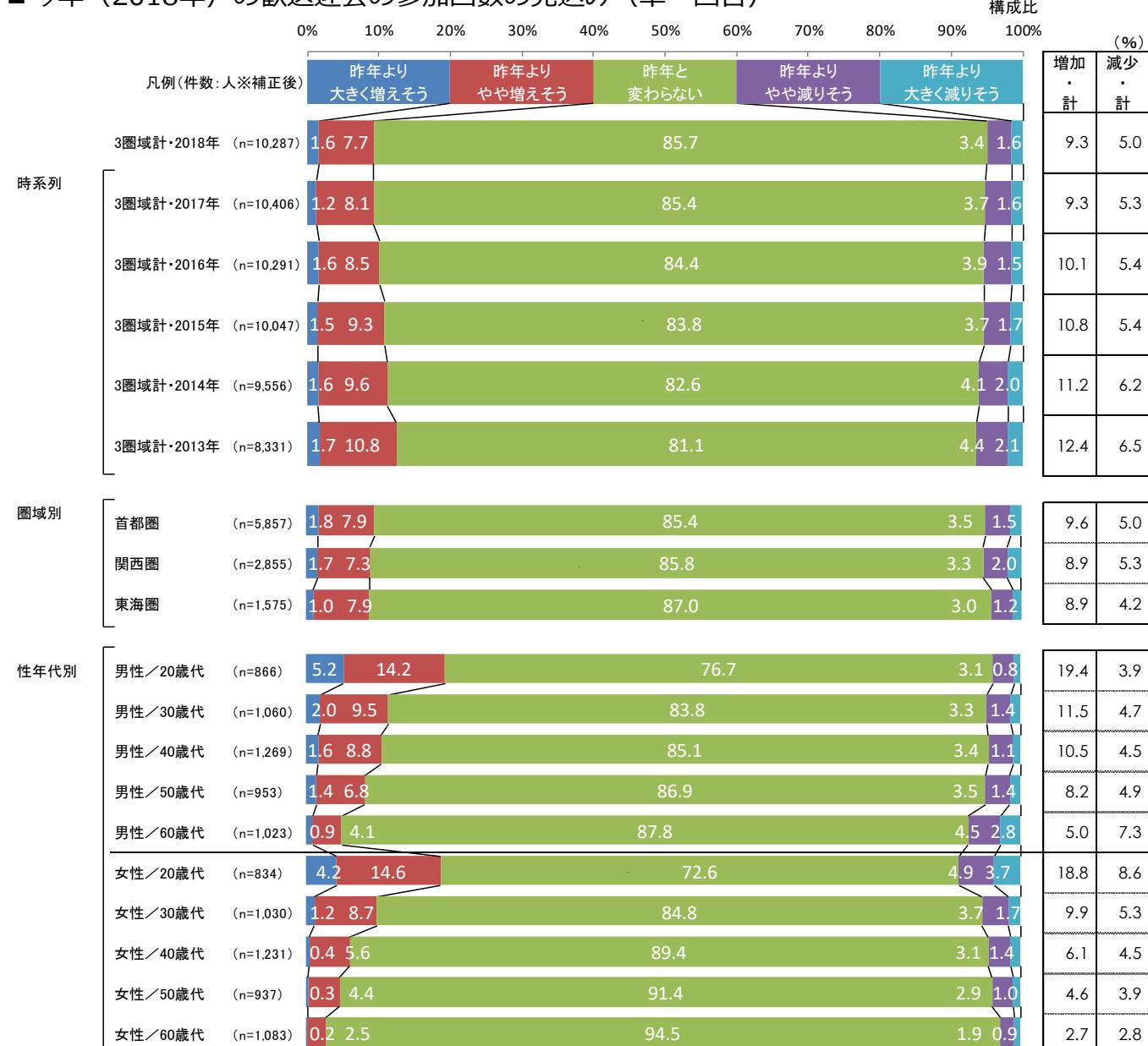


# 1. 今春の「歓送迎会」「花見」への参加率は「昨年並み」。参加率は前年同様3割程度か

＜歓送迎会＞ 2018年春の「歓送迎会」への参加回数の見込みは、「昨年並み」という回答が過去6年で最多であった。増加派（「昨年より大きく増えそう」+「昨年よりやや増えそう」）が計9.3%（前年計9.3%）、減少派（「昨年より大きく減りそう」+「昨年よりやや減りそう」）が計5.0%（前年計5.3%）と増加派が減少派を若干上回った（3圏域合計）が、全体として大きな変化はなさそうだ。なお、2017年の「歓送迎会」の参加率は31.9%（3圏域合計、P5）であった。今年も同程度の参加率が見込まれる。性年代別の特徴としては、男性が女性より参加率が高い傾向があり、特に50代で差が大きい。

＜花見＞ 2018年春の「花見」への参加回数の見込み（P4）でも、「昨年並み」という回答が過去6年で最多であった。増加派（「昨年より大きく増えそう」+「昨年よりやや増えそう」）が計9.0%（前年計9.3%）、減少派（「昨年より大きく減りそう」+「昨年よりやや減りそう」）が計2.4%（前年計2.6%）と増加派が減少派を若干上回った（3圏域合計）が、全体としてこちらも大きな変化はなさそうだ。なお、2017年の「花見」の参加率は29.0%（3圏域合計、P5）であったので、今年も同程度の参加率が見込まれる。性年代別の特徴としては、男女とも60代の参加率が他の性年代よりも高い傾向にある。

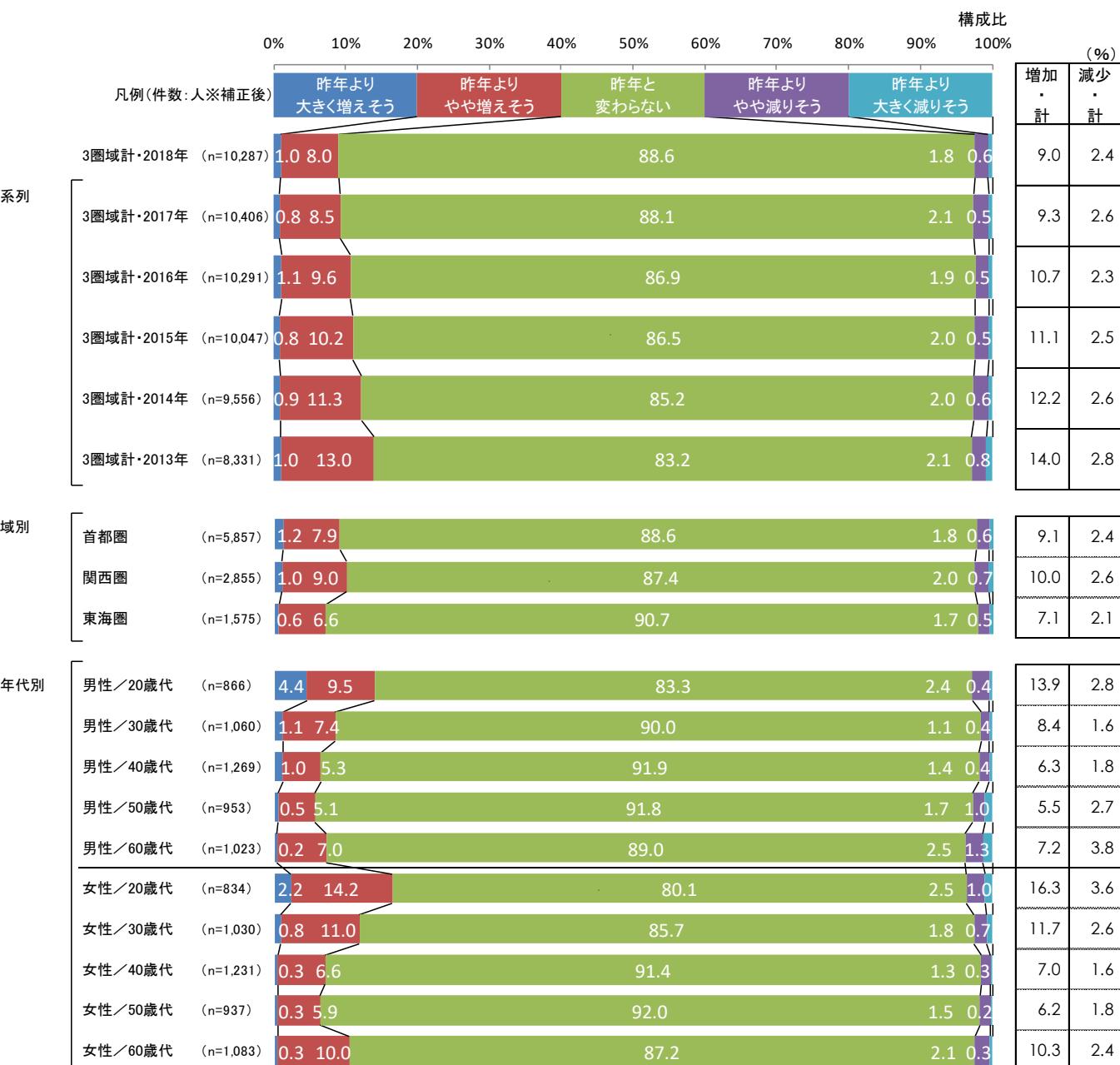
## ■今年（2018年）の歓送迎会の参加回数の見込み（単一回答）



※歓送迎会は店舗で行うものののみを尋ねている。

- 增加・計：「昨年より大きく増えそう」「昨年よりやや増えそう」のいずれかを回答した人
- 減少・計：「昨年よりやや減りそう」「昨年より大きく減りそう」のいずれかを回答した人

## ■今年（2018年）の花見の参加回数の見込み（単一回答）



※花見は、店舗および店舗以外の屋外やホームパーティで行うものも含めて尋ねている

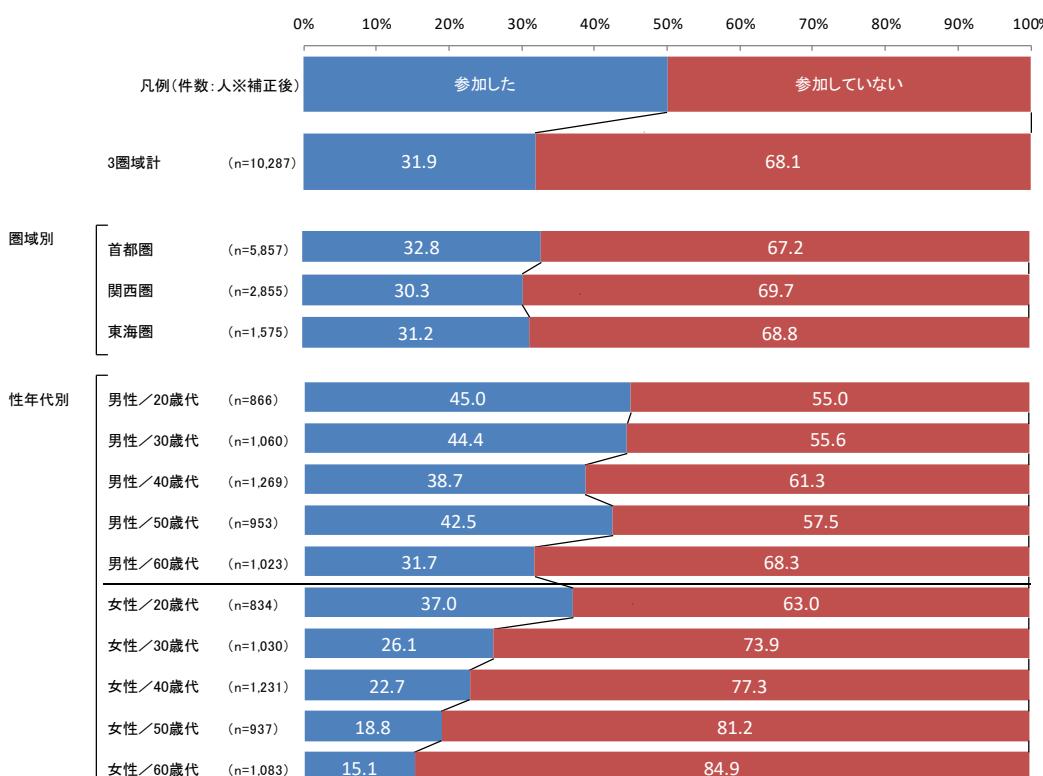
➤增加・計：「昨年より大きく増えそう」「昨年よりやや増えそう」のいずれかを回答した人  
 ➤減少・計：「昨年よりやや減りそう」「昨年より大きく減りそう」のいずれかを回答した人

## 2. (参考) 【2017年春】の歓送迎会・花見への参加有無

■昨年（2017年）の歓送迎会の参加有無（単一回答）

※今回（2018年）調査で聴取

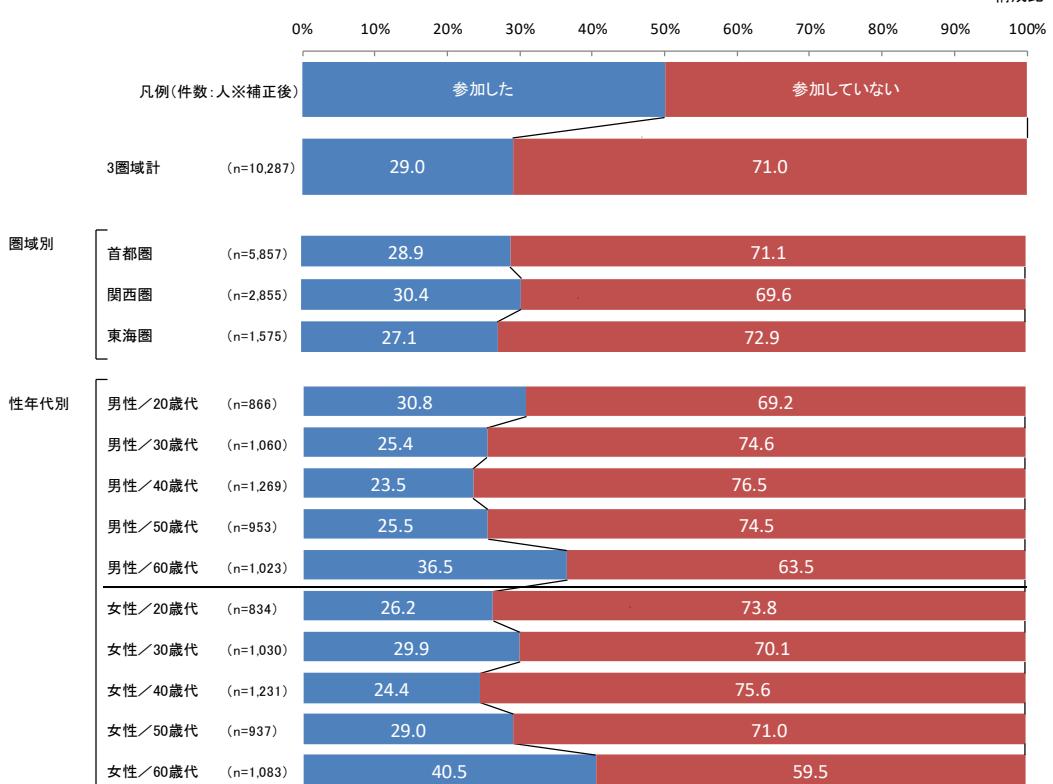
構成比



■昨年（2017年）の花見の参加有無（単一回答）

※今回（2018年）調査で聴取

構成比



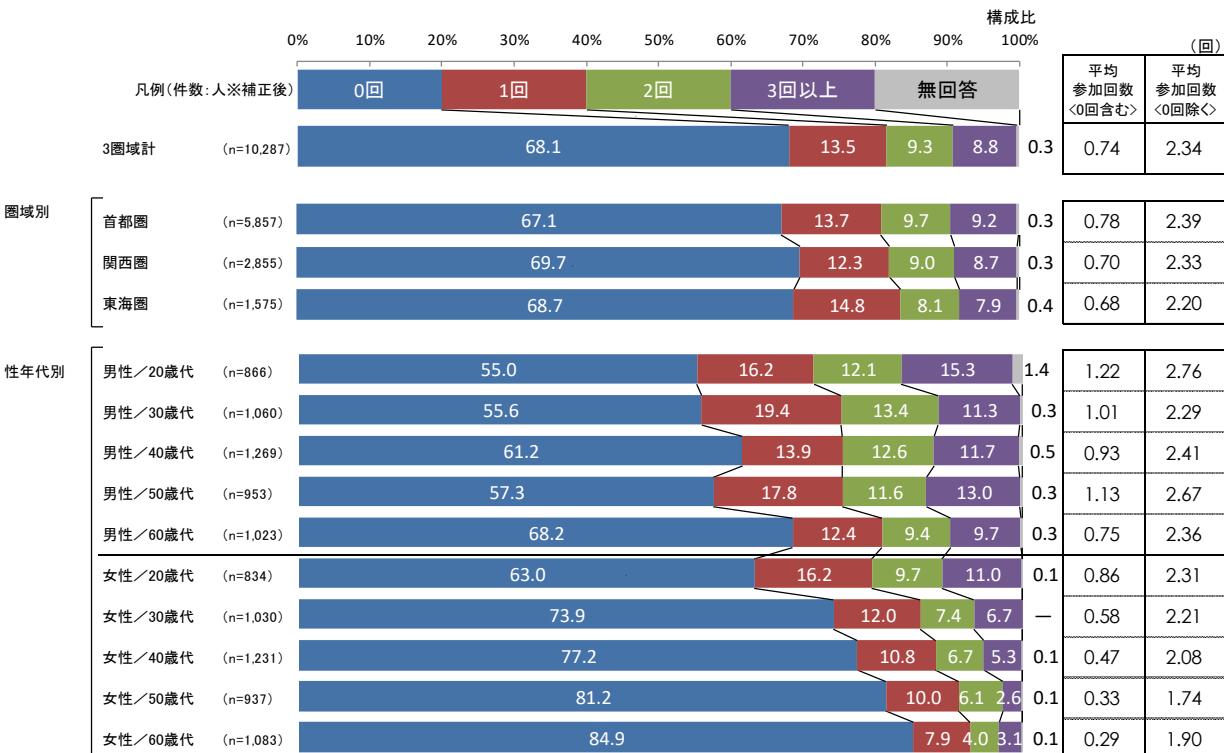
※「昨年（2017年）の歓送迎会・花見に参加した回数」の再カテゴライズ（外れ値処理前のデータを使用）

➤参加した：「2017年2月」～「2017年5月」までの各時期のいずれかで「1回」以上、回答した人

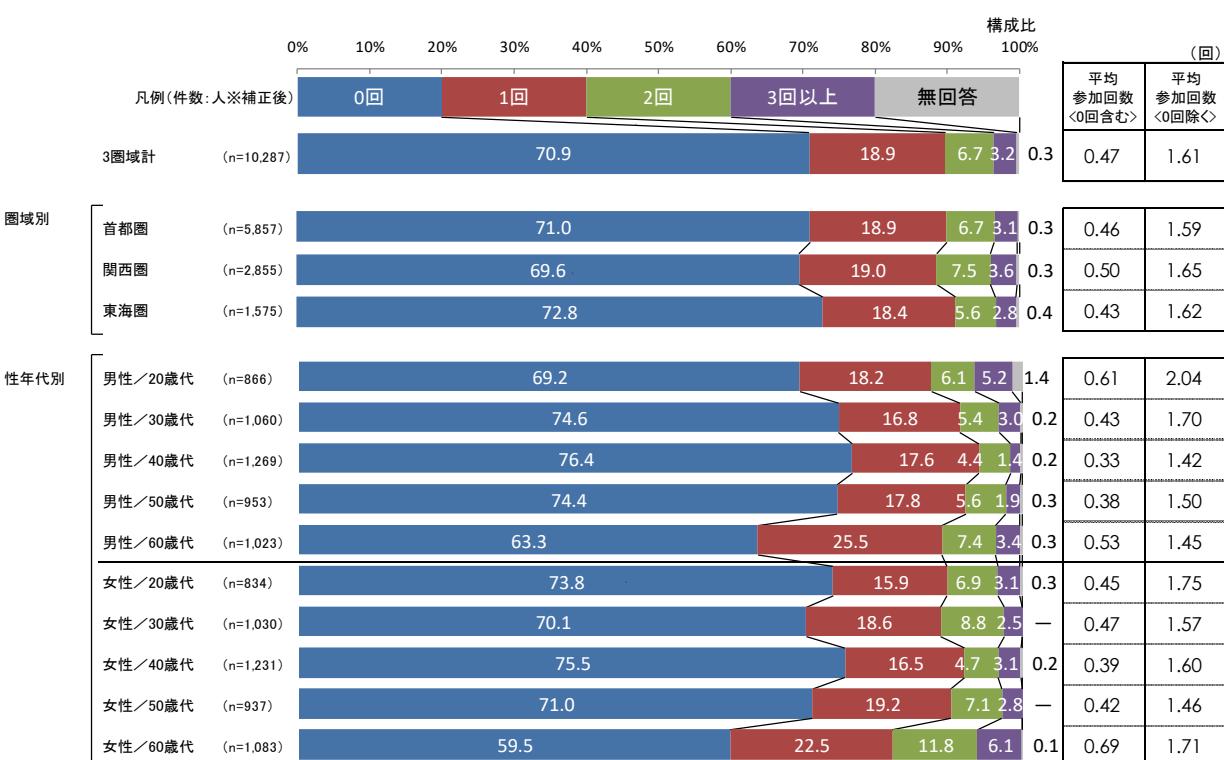
➤参加していない：「2017年2月」～「2017年5月」までの全ての時期で「0回」と回答した人

### 3. (参考) 【2017年春】の歓送迎会・花見への参加回数

■ 昨年（2017年）の歓送迎会の参加回数（実数回答） ※今回（2018年）調査で聴取



■ 昨年（2017年）の花見の参加回数（実数回答） ※今回（2018年）調査で聴取



※「平均参加回数」は、外れ値として上下0.1%の範囲のデータを除いて集計している

- ※「昨年（2016年）の歓送迎会・花見に参加した回数」の再カテゴライズ（外れ値処理後のデータを使用）
- 「0回」：「2月」～「5月」までの参加回数の合計が「0回」の人
  - 「1回」：「2月」～「5月」までの参加回数の合計が「1回」の人
  - 「2回」：「2月」～「5月」までの参加回数の合計が「2回」の人
  - 「3回以上」：「2月」～「5月」までの参加回数の合計が「3回」以上の人

4. 平均予算は「歓送迎会」が4,034円（前年比-59円）で2年ぶり減額予想、「花見」は2,490円（前年比+29円）で2年ぶり増額予想

予算について、過去6年の結果と今年の想定額を比較した。

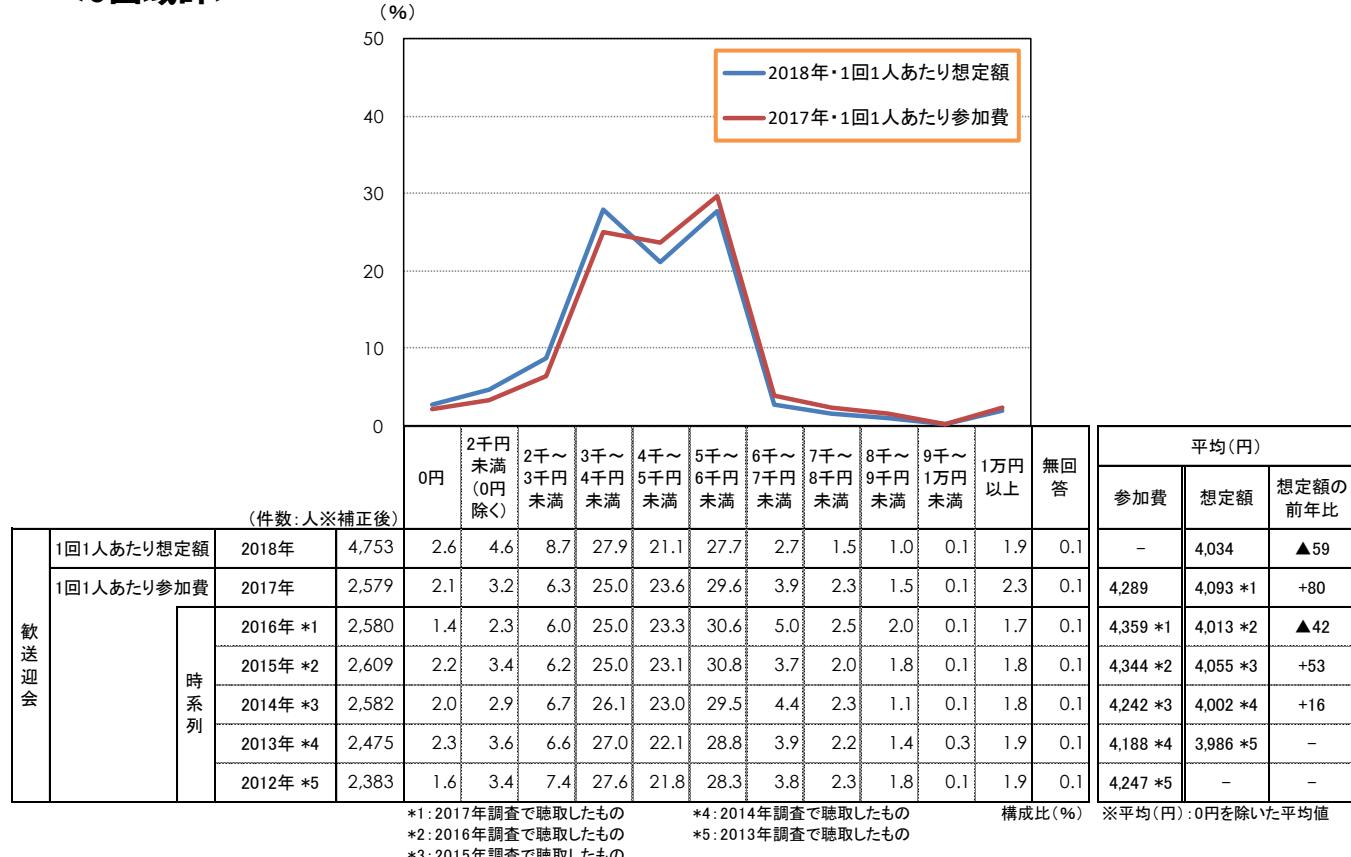
＜歓送迎会＞2017年における「歓送迎会」の実際の費用をみると、1人1回あたり「5,000円～6,000円未満」に大きな山、「3,000円～4,000円未満」に小さな山があったが、2018年は、2つの山の高さが逆転する予測になっている。1人1回あたりの想定支出金額平均は4,034円（前年比-59円）で2年ぶりにマイナス予測となった。

〈花見〉一方、「花見」(P8)については、2017年の実際の費用と今年の想定金額とともに「2,000円未満」が最多で、実績、想定ともに3,000円未満計で過半数のシェアを占めている。1人1回あたりの想定支出金額平均は2,490円（前年比+29円）と2年ぶりのプラス想定であった。

■歓送迎会の支出額実績と今年の想定金額（1人1回あたり参加費・実数回答）

※支出額実績は参加者ベース、今年の想定金額は参加する機会がありそうな人ベース

〈3圈域計〉



※平均は、「0円（自分では払わない）」を除いて集計している

※外れ値として各費用の上下0.1%の範囲のデータを除いて集計している。歓送迎会は店舗で行うもののみを尋ねている

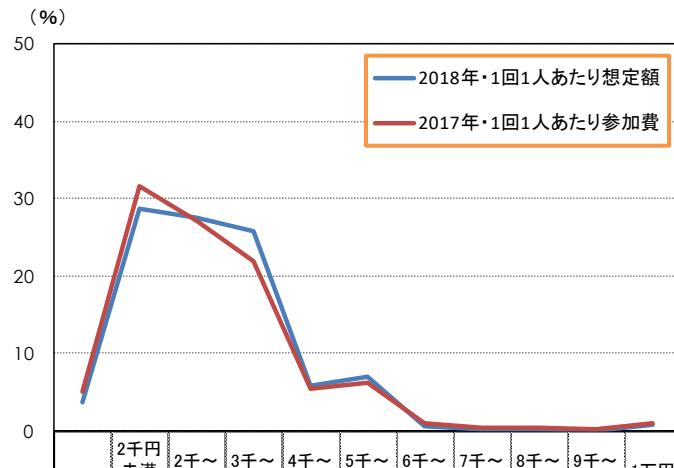
※想定額は、自分で払ってもいい額として尋ねている

※参加費は、自分で払っていなくても会にかかった1回1人あたりの金額を尋ねている

## ■花見の支出額実績と今年の想定金額（1人1回あたり参加費・実数回答）

※支出額実績は参加者ベース、今年の想定金額は参加する機会がありそうな人ベース

### <3圏域計>



(件数:人※補正後)

お花見	1回1人あたり想定額	2018年	平均(円)												
			参加費	想定額	想定額の前年比										
時系列	1回1人あたり参加費	2017年	2,182	5.0	31.5	27.1	21.8	5.5	6.3	0.9	0.4	0.3	0.1	0.9	0.1
		2016年 *1	2,227	5.5	33.5	25.3	21.5	5.4	5.7	0.8	0.5	0.3	0.1	1.4	0.1
		2015年 *2	2,182	5.8	31.0	25.0	24.1	4.5	6.9	0.6	0.4	0.3	0.0	1.3	0.1
		2014年 *3	2,167	4.6	33.3	26.4	23.0	4.3	6.0	0.6	0.2	0.5	0.1	0.9	0.1
		2013年 *4	2,128	4.6	35.0	26.3	21.8	4.5	5.3	0.7	0.3	0.4	0.1	0.9	0.1
		2012年 *5	2,079	4.3	33.1	28.1	21.7	4.8	5.4	0.8	0.2	0.4	-	1.1	0.1

\*1:2017年調査で聴取したもの

\*2:2016年調査で聴取したもの

\*3:2015年調査で聴取したもの

\*4:2014年調査で聴取したもの

\*5:2013年調査で聴取したもの

構成比(%)

※平均(円):0円を除いた平均値

※平均は、「0円（自分で払わない）」を除いて集計している

※外れ値として各費用の上下0.1%の範囲のデータを除いて集計している。お花見は、店舗および店舗以外の屋外やホームパーティで行われたものも含めて尋ねている

※想定額は、自分で払ってもいい額として尋ねている

※参加費は、自分で払っていないくとも会にかかった1回1人あたりの金額を尋ねている

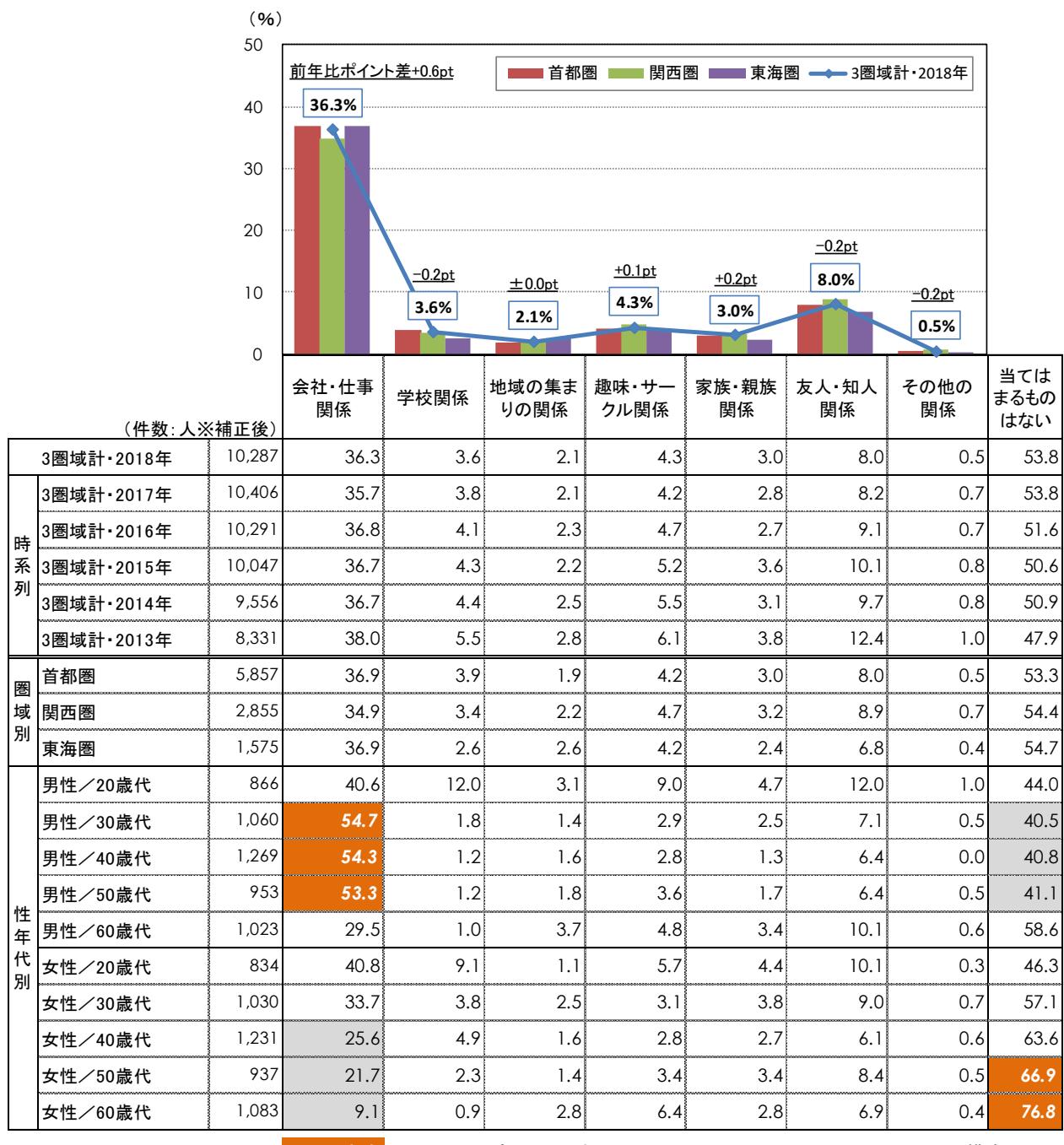
## 5. 会社・仕事関係の相手との「歓送迎会」は増加予想、 友人・知人関係の相手との「花見」は過去6年で最も少ない予想

2018年春の「歓送迎会」「花見」を誰と行うかについて聞いた。

＜歓送迎会＞「歓送迎会」では「会社・仕事関係」が最多で36.3%（前年比+0.6ポイント）であった。「会社・仕事関係」の相手は、数値が落ち込んだ前年よりは割合が微増しており、企業業績の堅調さや福利厚生充実の流れを背景に、積極的にこうした宴会が企画されている可能性がありそうだ。

＜花見＞「花見」では「友人・知人関係」が最多で20.6%（P10）であったが、前年比では「友人・知人関係」（20.6%）が前年比-0.9ポイント、2番目に多い「家族・親族関係」（19.7%）でも前年比-0.8ポイントと、ともに減少傾向にあり、全体の参加回数が横ばいの中「会社・仕事関係」は前年比+0.2ポイントとやや回復し、「家族・親族関係」がシェアを減少させた。

### ■ 参加する機会がありそうな歓送迎会の相手（複数回答）



**太字** 3圏域計より10ポイント以上高い項目

構成比 (%)

3圏域計より10ポイント以上低い項目

※前年比ポイント差：「(3圏域計・2018年)-(3圏域計・2017年)」で算出

## ■ 参加する機会がありそうな花見の相手（複数回答）

